

熊本大学附属図書館(中央館)リニューアル1周年記念

第30回熊本大学附属図書館貴重資料展

# 誓いを立てる 武士たち 細川家血判起請文の世界

期間 平成26年11月1日(土)～3日(月)

10時～17時

会場 熊本大学附属図書館 1階

古文書閲覧室・ラーニングコモンズ

入場無料

公開講演会・第9回永青文庫セミナー

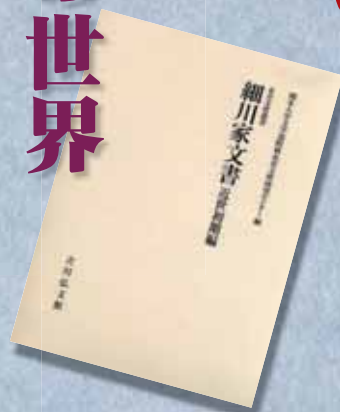
## 「近世初期細川家 血判起請文の世界」

講師 稲葉継陽(熊本大学文学部教授/文学部附属永青文庫研究センター長)

日時 平成26年11月1日(土) 14時30分～16時

会場 熊本大学附属図書館 1階ラーニングコモンズ

※聴講無料(先着130名まで)



# 誓いを立てる武士たち

## 細川家血判起請文の世界

きしょうもん

起請文とは、みずからの主張や約束が偽りなきことを誓約するための文書の様式で、中世初期に成立し、江戸時代を通じて作成されました。前半部分に主張・約束の内容を記し(「前書」)、「牛王宝印」と呼ばれる護符を裏返して、約束の内容に偽りなきことを神仏にかけて誓う文言(「神文」)を書いて、貼り継ぐのが一般的で、戦国時代には、誓約者(差出人)の血判を伴うようになりました。

熊本大学寄託永青文庫細川家文書のうちには、家臣たちが主君や上役に提出した血判起請文が、元和10年(1624)から明治3年(1870)まで、約270通も伝存しています。じつにその40%は、正保2年(1646)の第二代当主細川忠興の死去までの間に提出されたものです。こうした家臣団起請文のあり方は、初期の細川家が、いわば「御家騒動」的な状況を克服することで、17世紀後半以降の安定期を実現したことを物語っています。

戦国から江戸時代への大きな時代の転換に際して、武士たちの価値観はどう変化したのか。「天下泰平」の時代の武士たちが命をかけて手に入れようとしたものは何か。家老から御毒見役まで、100人以上もの血判起請文を通覧することで、転換期における武士たちの組織観、生き方の変化にせまります。



「長岡佐渡守等六名起請文」

寛永18年(1641)7月、細川忠利急死による光尚(光貞)への代替りに際して、松井興長ら家老衆6名が光尚に提出した血判起請文。自分たちは「御国家」を「大事」にし、私利私欲を排除して職務に専念する、と誓う。



「坂井七郎右衛門尉起請文」

寛永20年(1643)4月、坂井七郎右衛門尉が細川光尚寵臣の田中・藤崎に提出した血判起請文。坂井は御毒見役で、殿が食す料理はそれを調理した者をはじめ、料理に関与したあらゆる者に毒見をさせてから献上する、と誓約している。

### アクセス



### 熊本大学附属図書館 放送大学熊本学習センター



#### ◎交通センターから

(13番のりば) 産交バス・電鉄バス：  
楠団地、武蔵ヶ丘、大津行き等(子飼橋経由)  
「熊本大学前」下車 徒歩3分

※なるべく公共の交通機関をご利用ください。

問い合わせ

熊本大学附属図書館

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目40-1

096-342-2212

<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/>



熊本大学附属図書館公認キャラクター  
「くまぼん」